

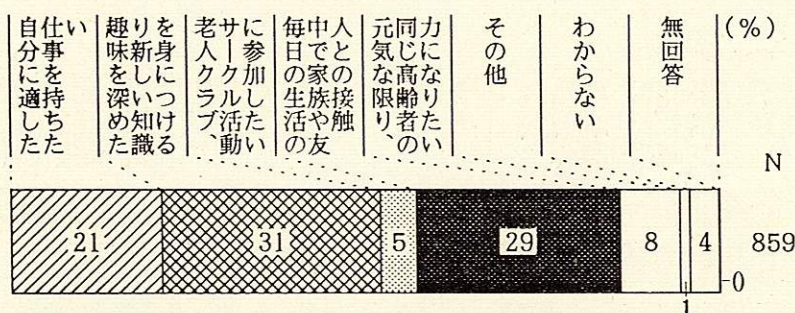
6. 高齢化社会

6-1. 老後の生活

◎「趣味を深めたり新しい知識を身につける」が31%。

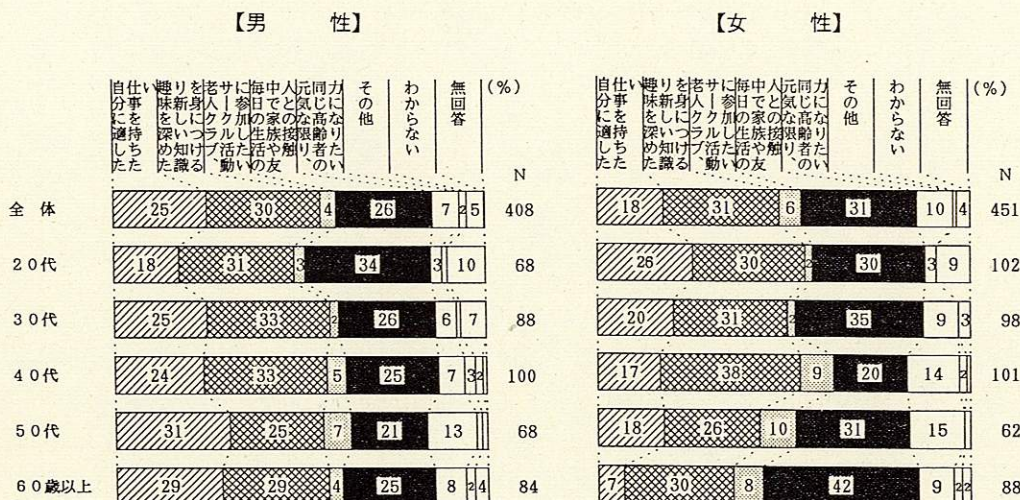
問11 あなたは、老後をどのように暮らしていきたいと思いますか。この中から1つだけあげてください。

図6-1



老後の生活について、「趣味を深めたり新しい知識を身につける」(31%)という人がもっとも多く、次いで「毎日の生活の中で家族や友人との接触」(29%)、「自分に適した仕事を持ちたい」(21%)、「元気な限り、同じ高齢者の力になりたい」(8%)、「老人クラブ、サークル活動に参加したい」(5%)となっている(図6-1)。

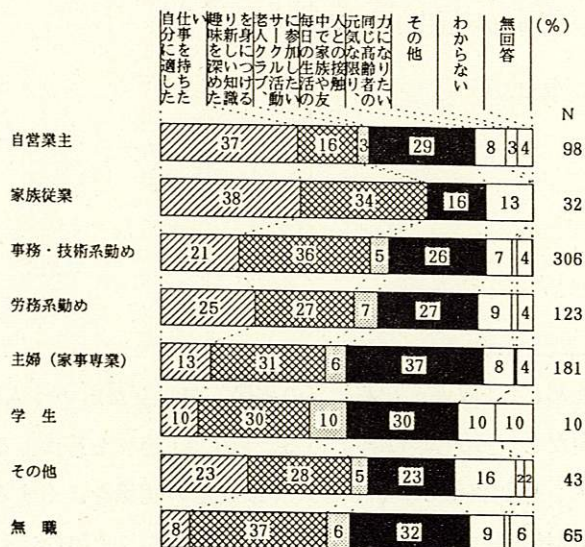
図6-2 性別・性年齢別 老後の生活



性年齢別では、「趣味を深めたり新しい知識を身につける」という人は、男女を問わず、全年齢にわたって多いが、とくに40歳代の女性（38％）で目立っている。「毎日の生活の中で家族や友人との接触」を挙げた人は、60歳代以上の女性（42％）でとくに多くなっている。「家族や友人との接触」を挙げた人は、男性では女性ほどは多くないが、50～60歳代以上よりも20歳代の人のほうが多くなっていることは注目される。「自分に適した仕事を持ちたい」という人は、女性よりも男性で多くなっているが、男性では20歳代で比較的少なく、年齢の上昇とともに多くなり、50歳代（31％）でもっとも多くなるという傾向を示している。女性の場合、20歳代（26％）でもっとも多く、年齢の上昇とともに少なくなっている。「元気な限り、同じ高齢者の力になりたい」という人は、50歳代の男性、40～50歳代の女性で10％を上回っている（図6-2）。

職業別で見ると、「趣味を深めたり新しい知識を身につける」という人は、自営業主（16％）で少なく、無職（37％）、事務・技術系勤め（36％）、家族従業（34％）で多くなっている。「家族や友人との接触」を挙げる人は専業主婦（37％）で目立っている。また、「自分に適した仕事を持ちたい」という人は、家族従業（38％）、自営業主（37％）で他の職業よりも10ポイント以上多くなっている（図6-3）。

図6-3 職業別 老後の生活

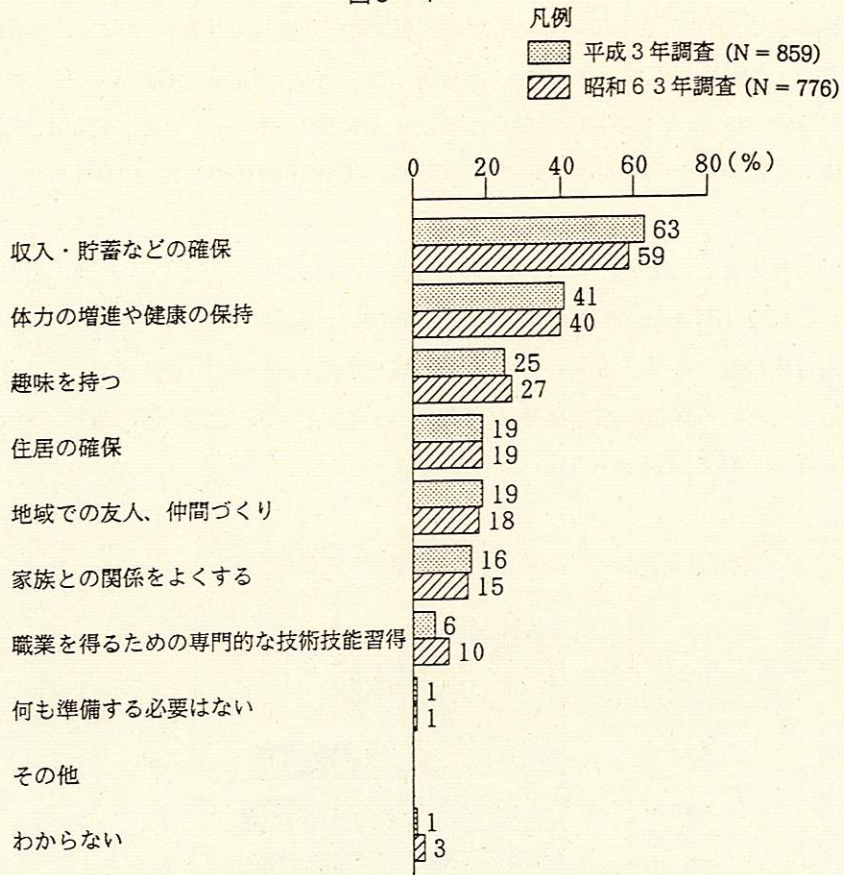


6-2. 高齢期への準備

◎「収入・貯蓄などの確保」が63%、「体力の増進や健康の保持」が41%。

問12 あなたは、高齢期の生活に備えるため、個人としてどのようなことを準備しておくべきだと思いますか。この中から2つまであげてください。

図6-4

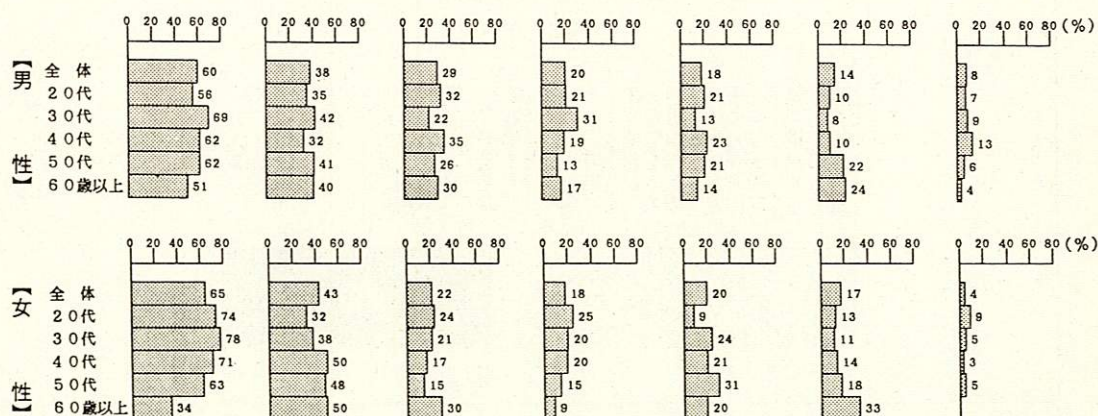


高齢期の生活に備えるために、「収入・貯蓄などの確保」が必要だという人は63%、「体力の増進や健康の保持」が必要だという人は41%である。以下、「趣味を持つ」こと(25%)、「住居の確保」、「地域での友人、仲間づくり」(19%)、「家族との関係をよくする」こと(16%)、「職業を得るための専門的な技術技能習得」(6%)となっている。昭和63年と比べても、大きな変動は見られない。ただ、「収入・貯蓄などの確保」が4ポイント増えていることは注目される(図6-4)。

性年齢別では、「収入・貯蓄などの確保」を挙げる人は男性よりも女性に多く、女性の場合、20～40歳代で目立っており、とくに30歳代では78%の人が挙げている。さらに、これを挙げる人は30歳代を境に年齢の上昇とともに少なくなる傾向が見られる。男性の場合も、女性ほどはっきりしたものではないが、似たような傾向が見られ、30歳代（69%）を境に少なくなっている。「体力の増進や健康の保持」は、40歳以上の女性で約半数の人が挙げている。「趣味を持つ」ことは40歳代の男性（35%）、20歳代の男性（32%）、60歳代以上の女性（30%）で目立っている。「住居の確保」は30歳代の男性（31%）で、「地域での友人・仲間づくり」は50歳代の女性（31%）で目立っている（図6-5）。

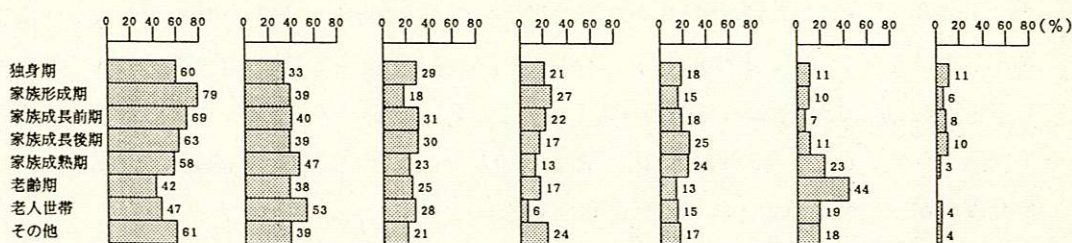
ライフステージ別では、「収入・貯蓄などの確保」を挙げる人は家族形成期の人（79%）で一番多く、家族が成熟するにつれて少なくなっている。「住居の確保」についてもまた、ほぼ同じような傾向が見られる。「体力の増進や健康の保持」では逆の傾向が見られ、老人世帯では53%になっている。高齢期の人では、「家族との関係をよくする」ことを平均の3倍弱である44%の人が挙げている（図6-6）。

図6-5 性別・性年齢別 高齢期への準備



【収入・貯蓄の確保】【体力の増進】【趣味を持つ】【住居の確保】【友人・仲間づくり】【家族との関係】【技術技能修得】

図6-6 ライフステージ別 高齢期への準備



【収入・貯蓄の確保】【体力の増進】【趣味を持つ】【住居の確保】【友人・仲間づくり】【家族との関係】【技術技能修得】

6-3. 希望する介護形態

◎家族同居の場合→「家族が主で行政の福祉施策の援助を受ける」が38%、ひとりぐらしの場合→「病院や老人ホームを利用」が40%。

問13 高齢化が進み、介護を必要とするお年寄りが増えてきた場合、お年寄りの世話はどのようにしていけばよいと思いますか。家族同居、ひとりぐらし、それぞれの場合について、これらの中から1つだけあげてください。

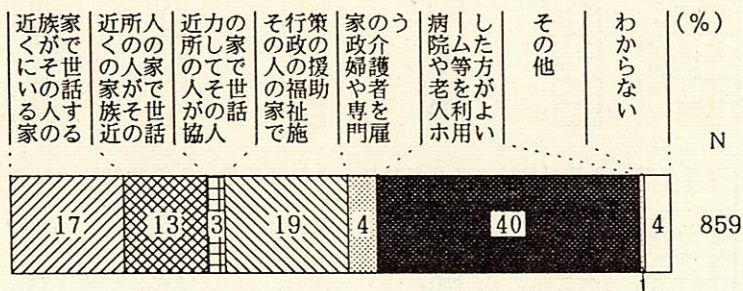
<家族同居>

図6-7-①



<ひとりぐらし>

図6-7-②



ここでは、希望する高齢者介護のあり方について、「家族同居」の場合と「ひとりぐらし」の場合とに分けて質問してみた。

「家族同居」の場合、もっとも多かったのは「家族が主で行政の福祉施策の援助を受ける」こと（38%）で、次いで「同居家族が自宅で世話をすること」（33%）、「病院や老人ホーム等を利用したほうがよい」（11%）、「行政の福祉施策の援助を自宅で受ける」こと（8%）となっている。「家族が主で近所の人に手伝ってもらう」こと（4%）、「家政婦や専門介護者を雇い自宅で世話を受けること」（2%）を希望する人は少ない。ほとんどの人が家族同居の場合、自宅での介護を希望していることになる（図6-7-①）。

性年齢別では、「家族が主で行政の福祉施策の援助を受ける」という人は、男性よりも女性に多く、女性では30歳代（53%）など若年層でとくに目立っている。男性では40～50歳代の中年層で目立っているが、高齢層では少なくなっている。「同居家族が自宅で世話をする」ことは、逆に男性のほうで多くなっているが、男性では20～30歳代の若年層と60歳代以上の高齢層で多く、40～50歳代で少なくなっている。女性の場合、男性ほど年齢による差はない。病院・老人ホーム等の利用は、男性の場合、若年層では少なく、年齢が上がるにつれて多くなっている。女性の場合は、ほとんどの年齢層で10%前後であり、男性ほど年齢による差はないが、ただ60歳代以上では20%と平均の2倍以上の人が希望している（図6-8）。

ライフステージ別で見た場合、老齢期の人では「同居家族が自宅で世話をすること」を希望する場合（50%）が目立って高くなっている。逆に家族成長後期の人では19%と目立って少なくなっている。また、老人世帯で病院や老人ホーム等を希望する人が28%に達していることは注目される（図6-9）。

図6-8 性別・性年齢別 希望する介護形態

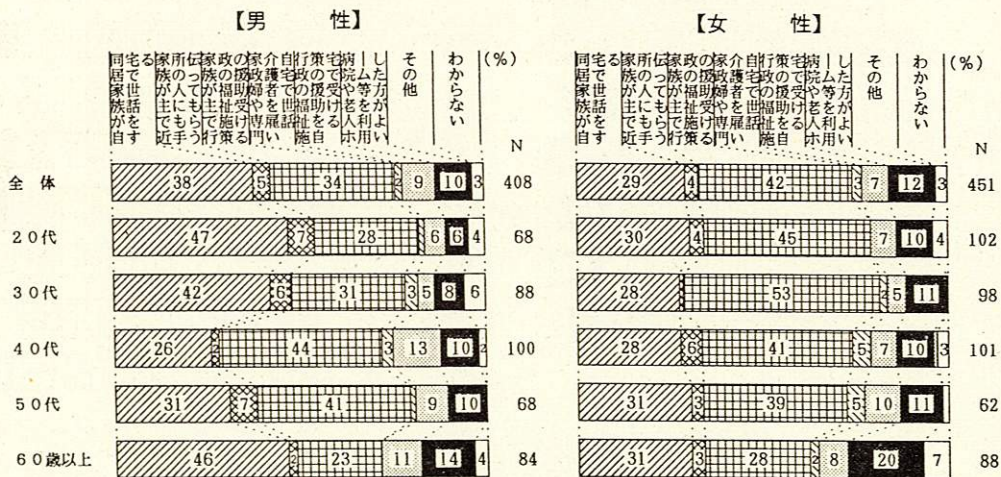
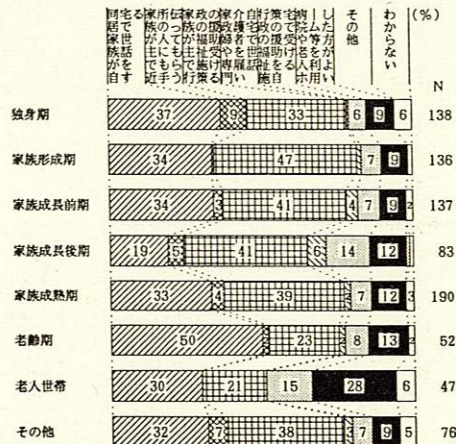


図6-9 ライフステージ別 希望する介護形態



住居形態別でみると、公団・公社・公営の賃貸住宅、分譲マンション・分譲アパートの居住者では、「家族が主で行政の福祉施策の援助を受ける」が4割を超えて多くなっている。一方、持ち家（一戸建）、民間のアパート・マンション、社宅・寮では、これと「同居家族が自宅で世話をする」とがほぼ同率で並んでいる（図6-10）。

病院や老人ホーム等を希望する割合が高い職業は、家族従業である。「家族が主で行政の福祉施策の援助を受ける」ことを希望する人は、専業主婦（46%）、事務・技術系勤め（43%）で多く、「同居家族が自宅で世話をする」ことは自営業主（42%）で多くなっている（図6-11）。

図6-10 住居形態別 希望する介護形態

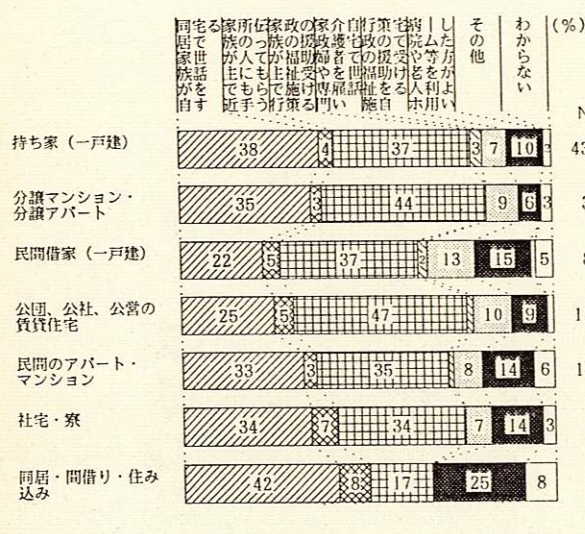
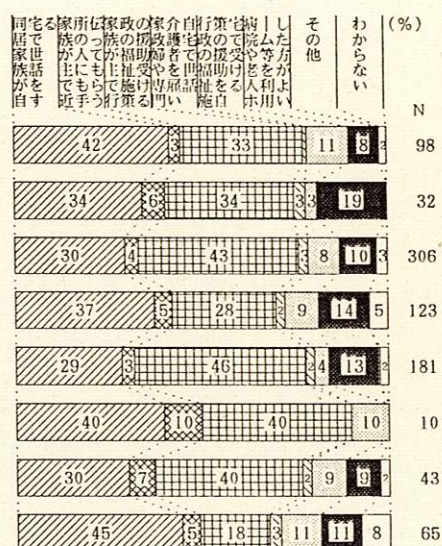


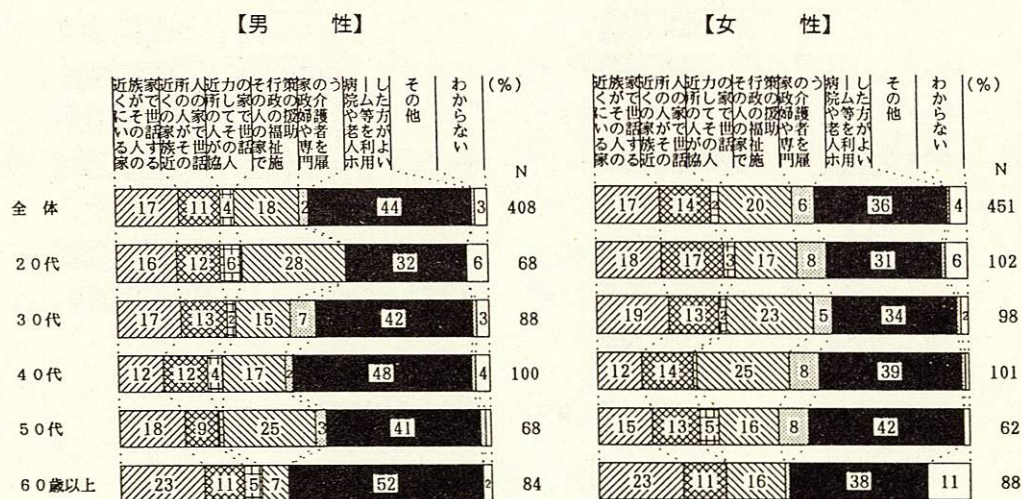
図6-11 職業別 希望する介護形態



「ひとりぐらし」の場合、「病院や老人ホーム等を利用したほうがよい」という人が40%、「その人の家で行政の福祉施策の援助」を受けるのがよいという人が19%、「近くにいる家族の人の家で世話をする」のがよいという人が17%、「近くの家族、近所の人がその人の家で世話」するのがよいという人が13%となっている。ひとりぐらしの場合でも、「家政婦や専門の介護者を雇う」こと（4%）、「近所の人が協力してその人の家で世話」すること（3%）は少ない。「家族同居」の場合と比べて、施設指向が強くなっている（図6-7-②）。

病院や老人ホーム等を希望する人は、女性よりも男性に多く、男性の場合、若年層よりも高齢層に多くっており、60歳代以上では50%を上回っている。女性の場合、20歳代では少ないが、男性の場合ほど年齢による差は見られない。それと同時に、60歳代以上では、男女とも「近くにいる家族」が世話をすることを希望する人も20%を超えている。自宅で「行政の福祉施策の援助」を受けることは、20歳代の男性（28%）でもっとも多くなっているが、50歳代の男性、30～40歳代の女性でも20%以上の人が挙げている（図6-12）。

図6-12 性別・性年齢別 希望する介護形態



ライフステージ別では、病院や老人ホーム等を希望する人は、家族の成熟とともに多くなり、家族成長後期では51%に達し、家族成熟期でまた少なくなり、老齢期では52%となっている。「近くにいる家族」が世話をすることを希望する人は、独身期と老齢期、老人世帯で比較的多いという傾向を見せている。自宅で「行政の福祉施策の援助」を受けることでは、傾向はその逆になっている（図6-13）。

「ひとりぐらし」の場合には、「家族同居」の場合のような住居形態による差は余り見られない。ただ、「公団・公社・公営の賃貸住宅」に住んでいる人では、施設指向は33%と少なくなっており、「その人の家で行政の福祉施策の援助」を受けることを選ぶ割合（30%）が高くなっている（図6-14）。

職業別では、家族従業の人（53%）と労務系勤めの人（50%）で、病院や老人ホーム等を希望する人が目立っている（図6-15）。

図6-13 ライフステージ別 希望する介護形態

図6-14 住居形態別 希望する介護形態

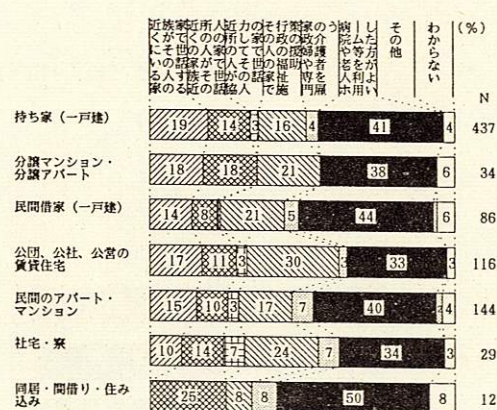
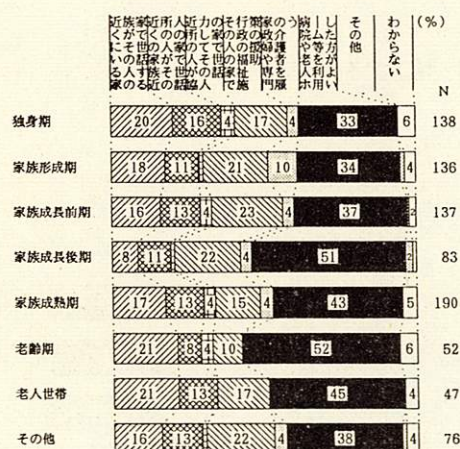
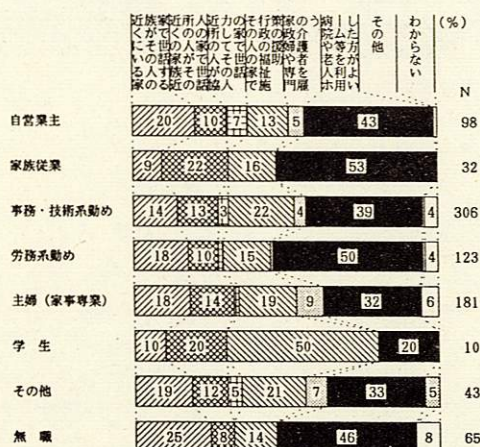


図6-15 職業別 希望する介護形態



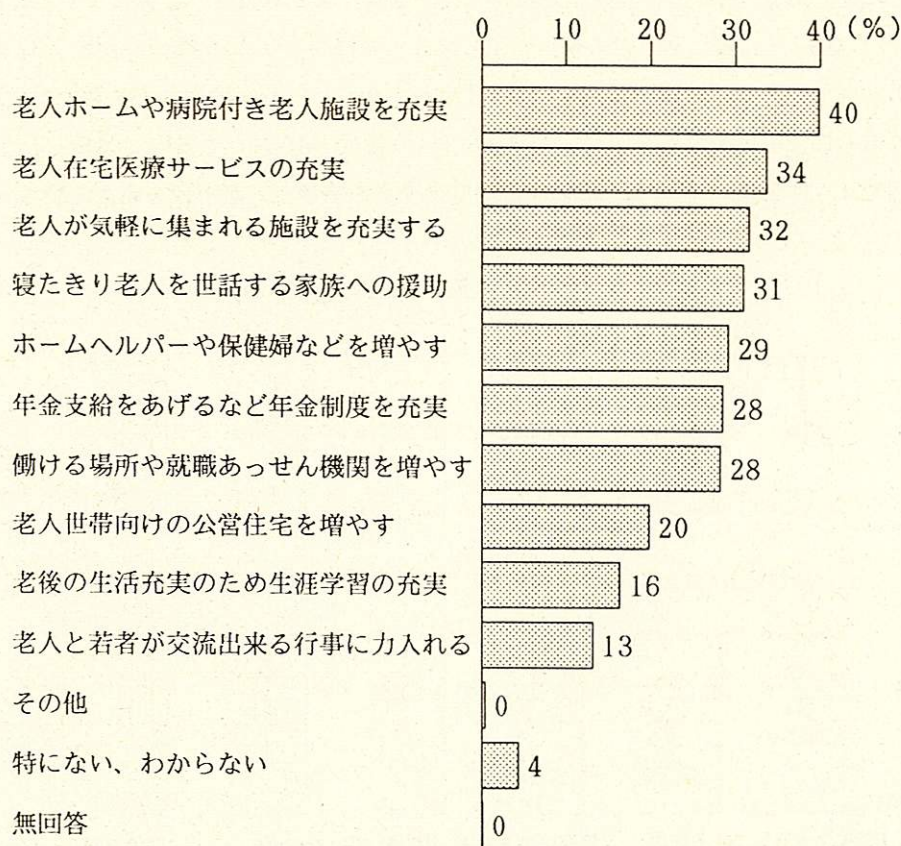
6-4. 高齢者対策への要望

◎「老人ホームや病院付き老人施設を充実」が40%。

問14 今後、高齢者対策として、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。この中から3つまであげてください。

図6-16

N = 859



今後の高齢者対策に関する要望としてもっとも多かったのは、「老人ホームや病院付き老人施設の充実」(40%)である。さらに、「老人在宅医療サービスの充実」(34%)、「老人が気軽に集まれる施設を充実すること」(32%)、「寝たきり老人を世話する家族への援助」(31%)、「ホームヘルパーや保健婦などを増やす」こと(29%)、「年金支給をあげるなど年金制度を充実」すること、「働ける場所や就職あっせん機関を増やす」こと(28%)、「老人世帯向けの公営住宅を増やす」こと(20%)、「老後の生活充実のための生涯教育の充実」(16%)、「老人と若者が交流出来る行事に力を入れる」こと(13%)となっている(図6-16)。

「老人ホームや病院付き老人施設の充実」と「老人在宅医療サービスの充実」、「老人が気軽に集まれる施設の充実」は性年齢を問わず要望が強いが、「老人ホームや病院付き老人施設の充実」の場合、男性では若年層（20～30歳代）で比較的挙げる人が少ない。女性では、20歳代で少なくなっているが、男性ほど年齢による差は見られない。もっとも要望が強かったのは、30歳代の女性（49%）である。「老人在宅医療サービスの充実」は30～40歳代の女性でとくに目立っている。「老人が気軽に集まれる施設の充実」は女性よりも男性で、男性でもとくに20歳代（44%）が多い。「寝たきり老人を世話する家族への援助」は、20歳代の女性（39%）、20歳代の男性（38%）でとくに目立っている。「ホームヘルパーや保健婦などを増やす」ことは、男性よりも女性で若干多くなっているが、とくに30歳代（40%）が多い（図6-17）。

職業別では、無職の人（54%）で、年金制度の充実を挙げる人が半数を超えている（図6-18）。

図6-17 性別・性年齢別 高齢者対策への要望

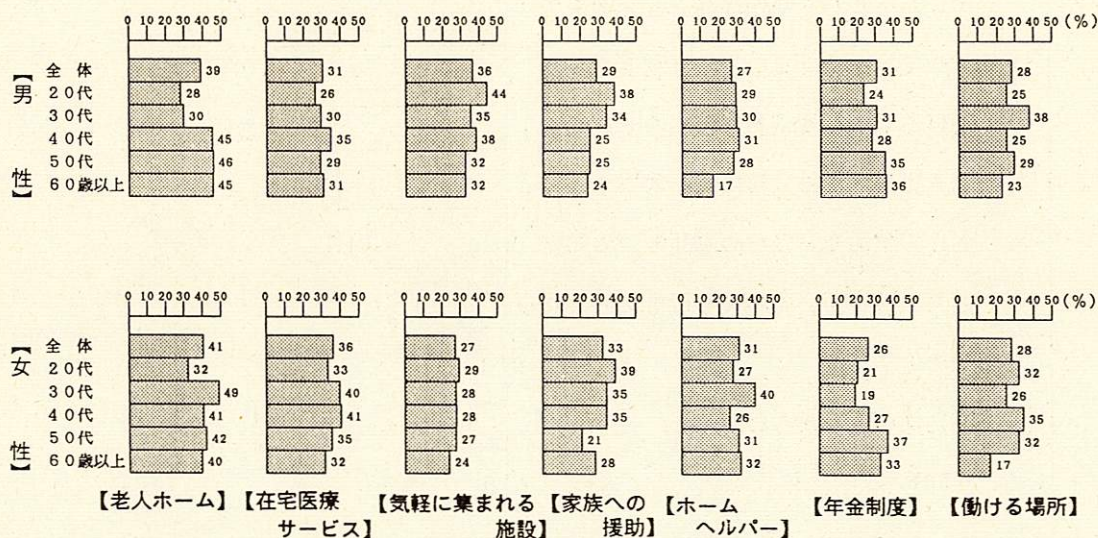


図6-18 職業別 高齢者対策への要望

